

第1回県立高等学校改革懇談会 【猪苗代】

- 令和元年6月6日(木) 14:00 ~ 15:30
- 猪苗代高等学校 会議室

福島県教育委員会

本日の進め方

I 県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

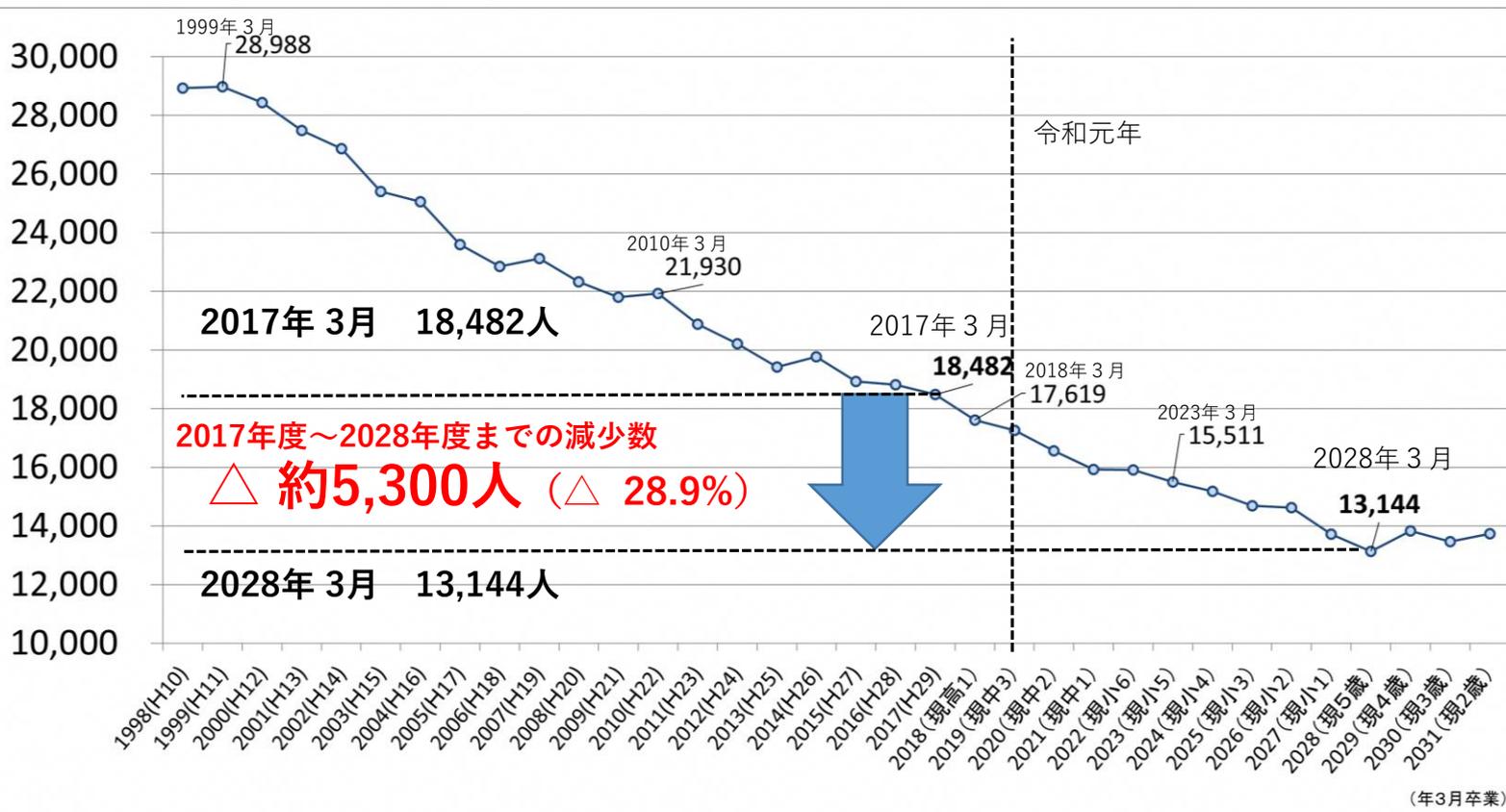
II 猪苗代高校の現在の状況

III 今後の再編整備の方向性について

Ⅰ 県立高等学校改革前期実施 計画策定の経緯

1 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

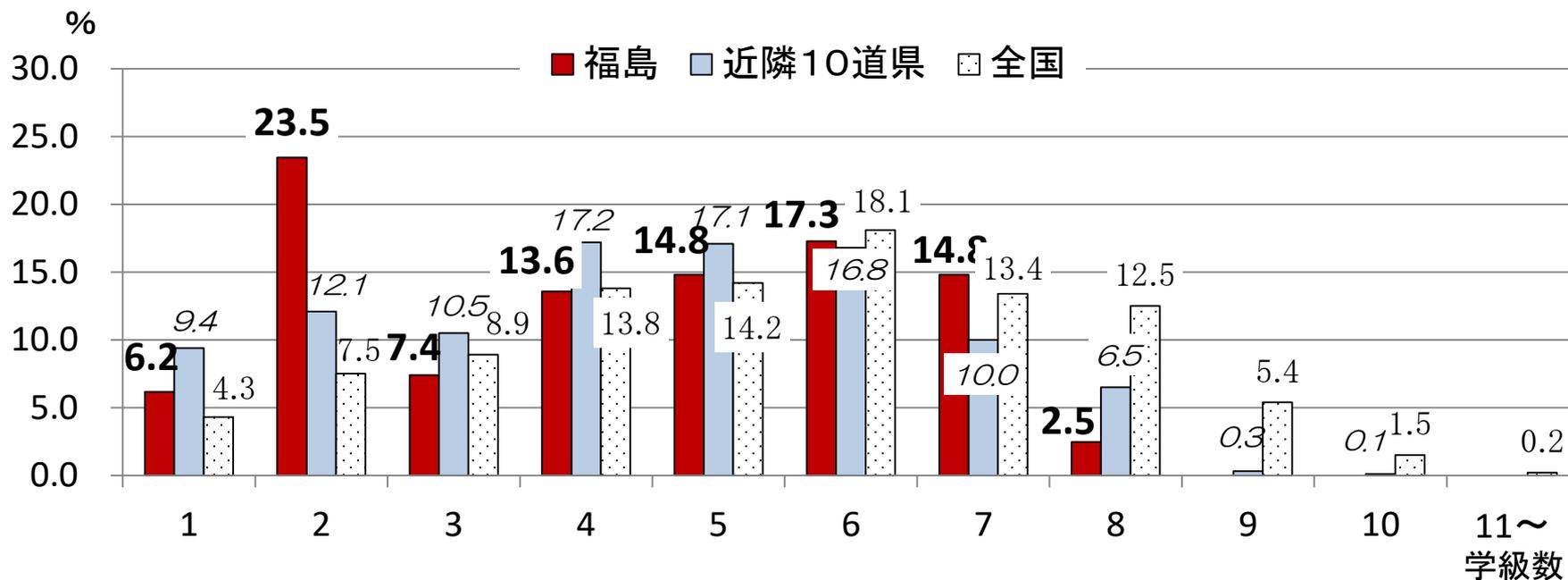
中学校卒業（見込）者数の推移（人）



出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

2 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度(平成30年度)都道府県立高等学校全日課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

3 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**
(中学校卒業予定者数が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齢化
(地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
(例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化
(3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の**学習ニーズの多様化**
(学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
(本県の復興に関わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

4 新しい県立高等学校改革計画の策定

県立高等学校改革計画「第一次まとめ」（平成9年）・「第二次まとめ」（平成11年）

福島県学校教育審議会 2017年（平成29年度）答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）5年間

県立高等学校改革後期実施計画（2024年度～2028年度）5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

- 基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進
- 基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上
- 基本方針 3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化
- 基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進
- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進
- **過疎・中山間地域の学習機会の確保**
地理的条件や公共交通機関の状況等から統合により近隣の高等学校への通学が極端に困難になる場合や地元からの入学者の割合が著しく高い場合、1学級本校化等の例外的措置を行う。

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

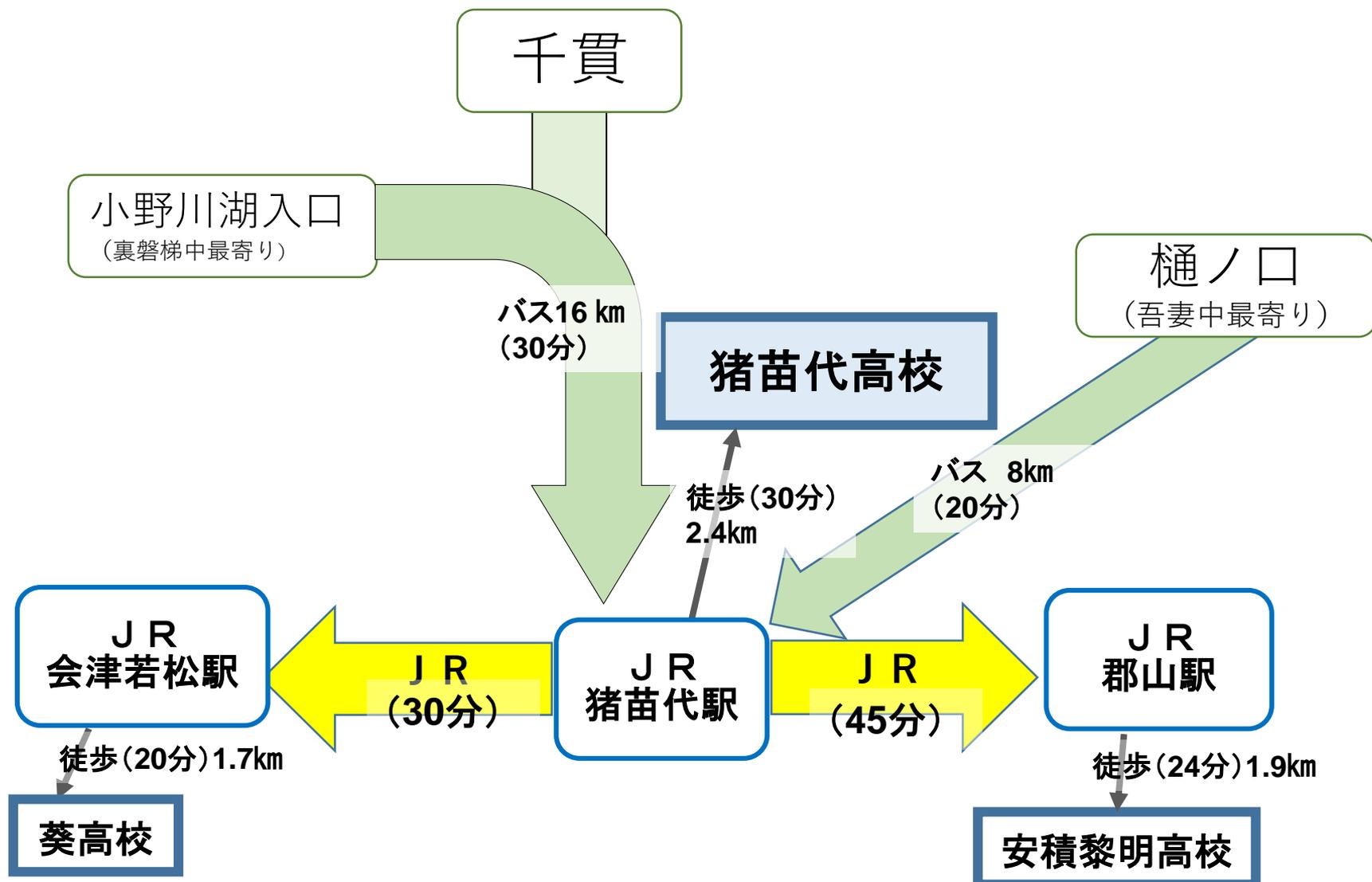
職業教育推進校

地域協働推進校

定時制・通信制高校

II 猪苗代高校の現在の状況

5 猪苗代及び周辺地域の交通状況



6 猪苗代高校の主な出身中学校の在籍者数と割合

中学校名	H28	H29	H30	計
猪苗代	73	60	55	188
東	19	22	22	63
吾妻	29	22	18	69
裏磐梯	2	4	4	10
磐梯	19	19	14	52
その他	18	12	16	46
全生徒数	160	139	129	428
全生徒に占める 地元の生徒の割合(%)	88.8	91.4	87.5	89.3

各年度学校要覧より

7 猪苗代町からの支援・町と連携した取組

町からの支援

デュアルシステム(企業体験)への支援
→ 生徒宿泊費の補助

社会福祉協議会
からの支援

JRC委員会への支援
→校地花壇整備費の補助

町役場・
消防署からの
支援

総合的な学習の時間等における
ゲストティーチャー

町教委との
連携

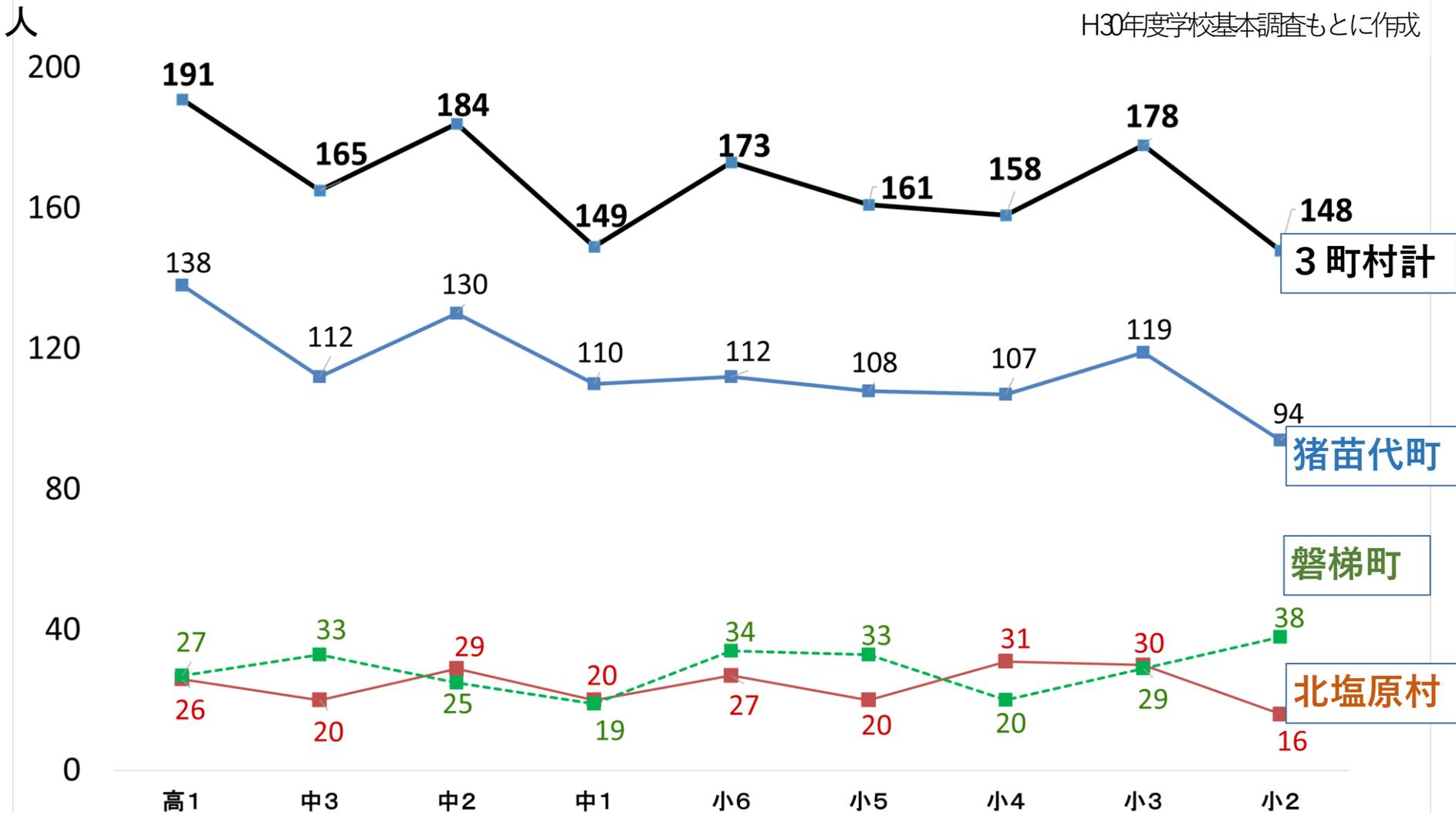
猪苗代町学力向上推進会議の開催
→小中高連携で研究授業

町との連携

「磐梯まつり」へのボランティア参加
→露店の手伝い、吹奏楽演奏

8 猪苗代町及び周辺2町村の児童生徒数の推移

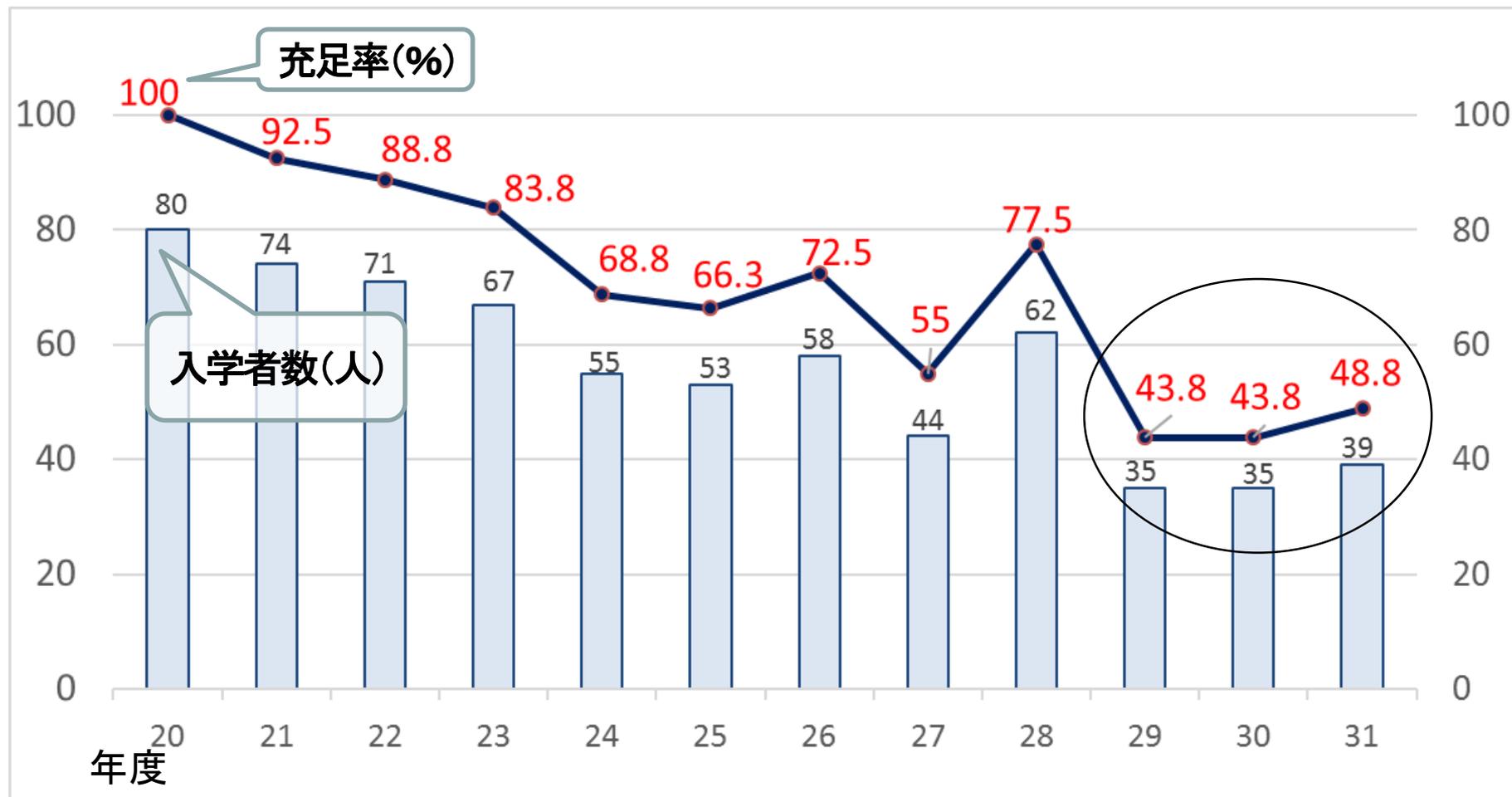
H30年度学校基本調査もとに作成



9 入学状況（平成20年度～平成31年）

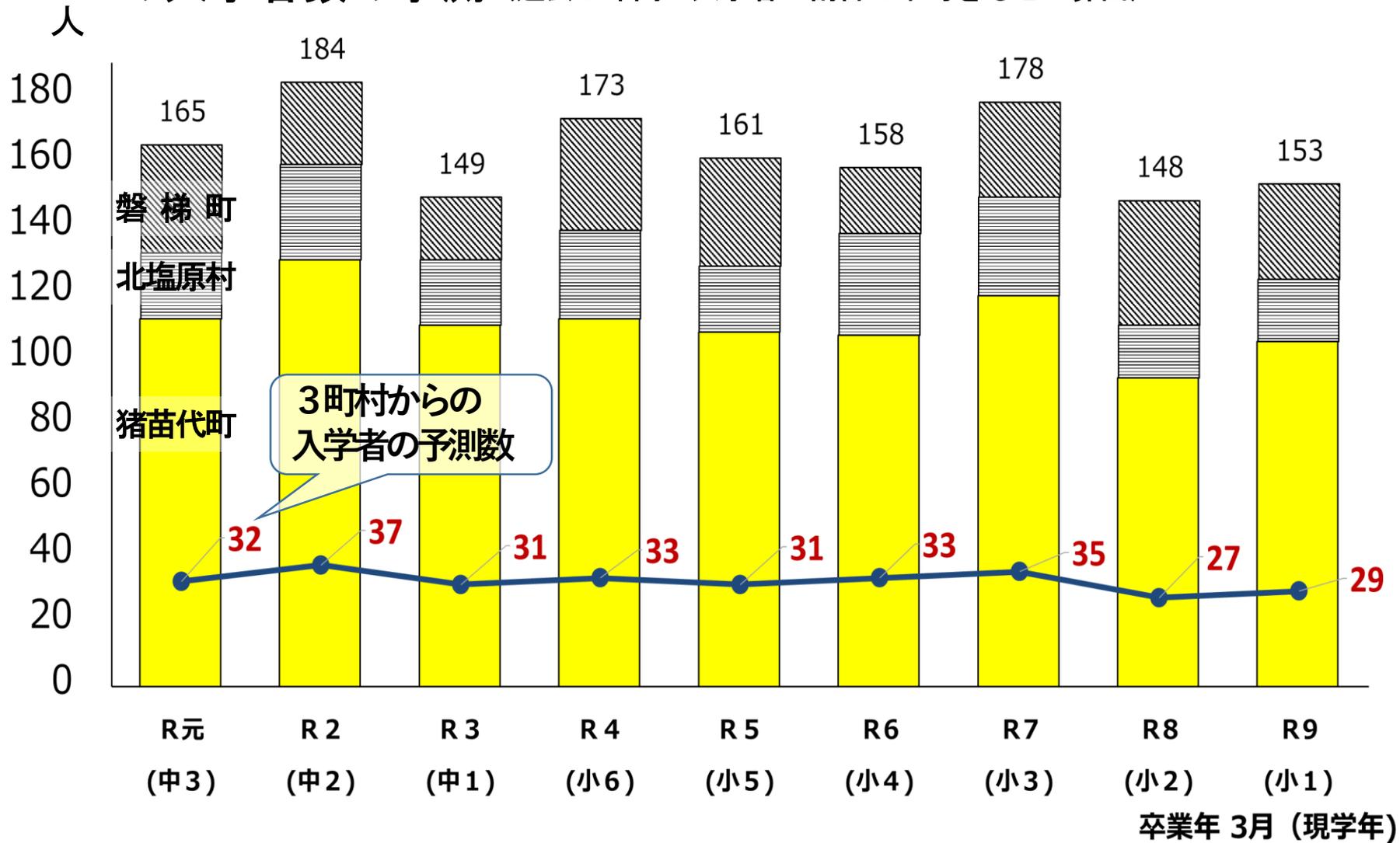
年度		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通科	募集定員	40											
	入学者数	40	39	37	37	31	27	30	33	30	24	22	26
	普通科の充足率(%)	100	97.5	92.5	92.5	77.5	67.5	75	82.5	75	60	55	65
観光 ビジネス科 (～H27国際観光科)	募集定員	40											
	観光ビジネス科 ※	40	35	34	30	24	26	28	11	32	11	13	13
	観光ビジネス科の 充足率(%)	100	88	85	75	60	65	70	28	80	28	33	33
募集定員 (普・観光)		80											
入学者計		80	74	71	67	55	53	58	44	62	35	35	39
募集定員全体の 充足率(%)		100	92.5	88.8	83.8	68.8	66.3	72.5	55	77.5	43.8	43.8	48.8

10 猪苗代高等学校の入学者数の推移



○ は定員(80名)の1/2(40名)を下回った年度

11 猪苗代町及び近隣 2 町村の中学校卒業見込者数と猪苗代高校への入学者数の予測 (過去 5 年間の入学者の割合の平均をもとに算出)



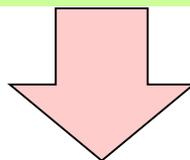
Ⅲ 今後の再編整備の方向性について

12 猪苗代高等学校の今後について

福島県教育委員会の方針

前期実施計画における
過疎・中山間地域の学習機会確保のための例外的措置

- 「地理的条件や公共交通機関の状況等から統合により近隣の高等学校への通学が極端に困難になる場合」
- 「地元からの入学者の割合が著しく高い場合」



普通科の1学級規模の本校
地域協働推進校

13 1学級本校化のメリットとデメリット

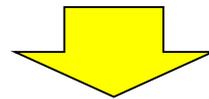
(1) メリット

- 本校として学校が維持される。
- 学校が存続することにより、今まで通り、町内の生徒が猪苗代高校へ通学することができる。
- これまでの学校の伝統を生かしながら、地域を支える人材の育成が可能となり、町の発展に繋がる。
- 引き続き校長が常駐することになり、リーダーシップによる安定した学校運営が可能となる。
- 養護教諭、事務職員の配置が引き続き可能となる。

14 1学級本校化のメリットとデメリット

(2) デメリット

- クラス替えができず、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- 学校規模が小さくなるため、部活動の種類がこれまで以上に限定される。
- 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。



デメリットの克服に向けて

福島県教育委員会

特色化に応じた支援
を検討(教職員の配置、
学校運営の支援等)

猪苗代高校

魅力あるカリキュラムの検討

猪苗代町

支援の継続

15 1 学級本校化後の猪苗代高校のイメージ図

地域協働推進校

地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、**生徒の進路希望に対応したキャリア教育**の実践による、**地域創生の核**となる人材の育成を図る高等学校

- 地域と連携した特色ある普通科
観光業など地域の教育資源を活用した商業の学びを継承し、地域で活躍できる人材を育成する教育カリキュラムを実施。
- 実践的なキャリア教育の推進
個に応じた進学指導、専門学校と提携した公務員試験対策、地域行事への積極的な参加。
- コミュニティ・スクールの導入
地域の声を学校運営に反映させ、地域との協働による教育活動の一層の推進を図る。

1 学級本校化に向けて検討する特色化の例

丁寧な学習指導・
キャリア教育

商業の学びの継承

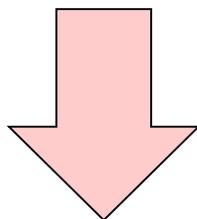
猪苗代ならではの地域資源を活用
(自然・歴史・文化・観光・スポーツ・
地場産業…)

学校行事等における
近隣学校との交流や連携

探究型・課題解決型学習
の充実

16 1学級本校化にあたって...

- 学校のさらなる魅力化が必要
- 学校と地域とのさらなる連携が必要



猪苗代高等学校が、より魅力ある学校となるように地域の皆様と協議をしてみたいと思います。

17 今後の改革懇談会の進め方(案)

6月

第1回 改革懇談会(本日)

- ・1学級本校化についての説明
- ・御意見の聴取(1学級本校化について/学校の魅力化について)

7月以降

第2回 改革懇談会(予定)

- ・第1回懇談会までの意見に対する回答
- ・学校の魅力化についての検討
- ・御意見の聴取、課題の確認(教育課程/校内組織/部活動)
- ・学校と地域の今後の連携の確認
- ・御意見の聴取

10月

募集定員を公表

校内の教育課程委員会等により教育内容の検討
← 県教委と連携